



次期土佐和紙総合戦略の全体イメージ案について

現行の土佐和紙総合戦略の全体像

期間 ○H30.10月～R5.3.31

目標 土佐和紙販売額 H29：5.9億円（機械すき5.0億円、手すき0.9億円）⇒ R5：7.0億円（機械すき6.0億円、手すき1.0億円）

基本方針 ①土佐和紙の原料確保

- 課題**
- 原料生産体制の確保
 - 原料取引価格の適正化
 - 鳥獣被害対策
 - 活動資金の調達
 - 川中・川下との交流(ニーズ共有)

取り組み

- (1) こうぞ生産者と和紙生産者との意見交換会の開催
- (2) 楮についてのワークショップの開催
- (3) こうぞ生産が可能な土地の情報収集、あっせんに向けた試験栽培の実施

②用具の確保と土佐和紙生産者の後継者育成

- 用具製作職人の確保(箕桁、金具)
- 手すき和紙職人の確保（後継者の掘り起こしと産地への定着）

- ◎用具不足への対応、人材育成、用具技術の数値化
 - (1) いの町所有の箕桁の修繕及び貸し出し体制の構築
 - (2) 用具製作技術者の育成
 - (3) 用具寸法の数値化
- ◎手漉き和紙の人材育成
 - (4) 手すき和紙職人の後継者掘り起こしの実施
 - (5) 手すき和紙職人の後継者育成

③土佐和紙のPR・販売促進・新商品開発

- 土佐和紙のブランド力強化
- 土佐和紙を使用する機会の創出
- 販路の開拓
- 新たな商品開発

- ◎「土佐和紙」ブランド力強化
 - (1) 土佐和紙製品PRパンフレットの作成
 - (2) 土佐楮にこだわった認証制度の創設
- ◎土佐和紙PR
 - (3) 高知家プロモーション等でのPR実施
 - (4) イベント等でのPR
- ◎販売促進
 - (5) 販路開拓
 - (6) 販売促進
- ◎新商品開発
 - (7) 新商品開発への支援実施

④土佐和紙文化の発信と無形文化遺産登録

- 学校現場における歴史教育
- 文化・芸術に触れる機会の創出
- 国重要無形文化財の指定に向けた技術保持団体の設立

- ◎土佐和紙文化の啓発
 - (1) 県立施設等での活用や企画展の実施
 - (2) 教育現場での啓発活動の実施
 - (3) 観光分野での活用による啓発【R3～】
 - (4) 紙とあそぼう作品展の開催
 - (5) 国際版画トリエンナーレ展の開催
- ◎ユネスコ無形文化遺産への登録
 - (6) ユネスコ無形文化遺産への登録に向けた土佐和紙保存会の活動支援及び技術保持団体の設立

実行

体制



土佐和紙振興対策推進会議

次期土佐和紙総合戦略の全体像イメージ案

期間 R5.4.1（R5年度）～R10.3.31（R9年度） 5年間

目標 全体目標に加え、**基本方針ごとのKPIを設定**

基本方針 引き続き、川上から川下までの総合的な戦略として改定・実行→4つの基本方針

①原料づくり

原料の確保



- 持続可能な県内原料生産体制の構築

- 生産（加工）技術の改良(New)
 - ・作業効率化の手法、用具の開発等
- 作業工程の分業化の検討
 - ・分業化や協働化による作業効率向上
- 原材料生産者の収入を改善する方策の検討(New)
 - ・原料の廃棄部位の二次利用検討等
- 原材料の新たな生産者の確保
 - ・土地や設備の調達支援等

②担い手づくり

後継者育成



用具確保



- 用具製作における後継者の育成支援
- 和紙職人の後継者育成の体制強化、定着支援

- 用具の受発注状況の分析(New)
 - ・聞き取り調査分析、対策検討
- 用具製作技術の見える化
 - ・用具の規格特性をデータ化
- 当面の用具調達の支援
 - ・研修修了生制作の貸出し検討等
- 研修の受け入れ体制の構築(New)
 - ・複数講師の研修制度構築等
- 研修終了後の就業支援の検討
 - ・就業設備への支援等
- ビジネス研修
 - ・経営スキル向上の研修実施等

③マーケットづくり

商品開発・販売促進



- 新たな商品開発
- 販売促進、販路開拓
- 土佐和紙のブランド力強化

- 販促活動の実施、B to B及びB to Cの新商品開発
 - ・B to B 既存商品磨き上げ、新規開拓等
 - ・B to C アプリを活用した販促等
- 販売促進体制の構築
 - ・販促活動の活性化策を検討等
- 土佐和紙PRの強化
 - ・新ツールを活用したPR活動の強化等

④魅力づくり

文化の発信と
無形文化遺産登録



- 教育現場等での和紙に触れる機会創出
- 国重要無形文化財の指定に向けた技術保持団体の設立検討

- 土佐和紙の認知度向上
 - ・新たなイベントの活用検討等
- 県内児童生徒への土佐和紙に触れる機会の創出
 - ・県内小中学校へ和紙作りや創作活動を働きかけ
- 土佐和紙保存会の活動支援
 - ・情報交換や学習の場づくりを支援等

主な課題

取り組みの方向性

体制

全体会である推進会議に加え、**基本方針ごとのプロジェクトチームを立ち上げ**、当該基本方針の具体的な進捗については同チームで共有・協議



土佐和紙総合戦略の分析

文化の発信と 無形文化遺産登録

潤滑油として、回転を良くする

- ・文化発信、文化遺産登録で土佐和紙の魅力を高めることで、産業を支えることに繋がる



原料の確保

- ・安定した量の土佐和紙を製造するうえで、原料の生産体制の確保は重要
- ・土佐和紙の需要が増えることで、県内産原料の需要も高まる

用具の確保(生産性向上)

- ・土佐和紙の生産体制において、用具の確保及び用具製作職人の育成・確保は重要
- ・土佐和紙の後継者が増えることで、用具の需要も高まる

後継者育成

- ・土佐和紙を後世に残すため、技術を伝承する担い手の育成・確保は重要
- ・和紙の需要があり、業として成り立つことで後継者も集まる

商品開発・販売促進

需要が生まれることで、**他の歯車を力強く引っ張る**

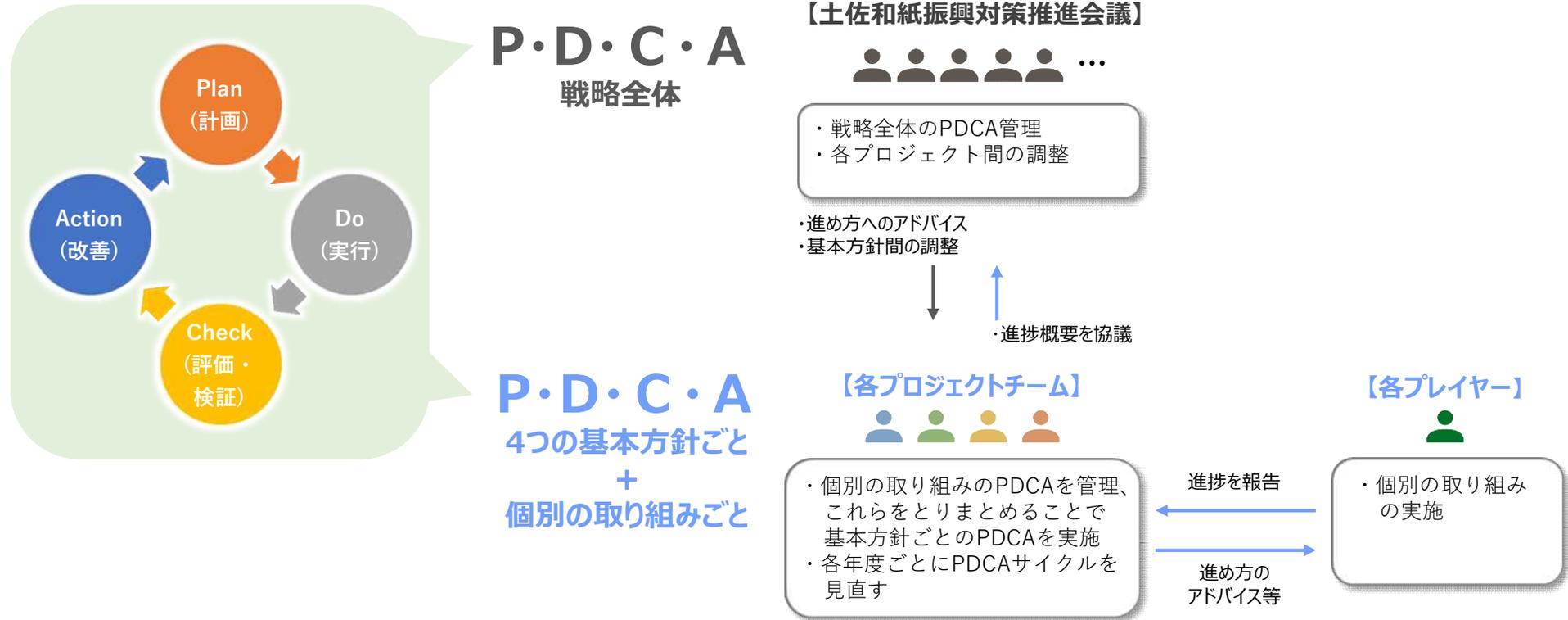
注力!

- ・商品開発、販売促進等により土佐和紙需要を拡大する

歯車が上手く回ること

土佐和紙の振興へ繋がる

プロジェクトチームのイメージ案



注目!



基本方針ごとにプロジェクトチームを編成。
各団体は、関連のあるプロジェクトチームに参画し、機動性のある取組を実施。
※メンバーには、推進会議委員に加え、現場のプレイヤーや当該分野の有識者を追加。

【設置の意図】

- ・きちんとPDCAサイクルの回る進捗管理を行う体制をつくる
- ・土佐和紙の振興は答えのない難しい世界であるからこそ、取り組みの記録をPDCAシートとして残していくことで、取り組みの結果を今後に生かしていく
 - トライ&エラーを繰り返し、うまくいった取り組みは拡大し、うまくいかなかった取り組みはその原因を分析したうえで新たな取り組みに組み替えていく（うまくいっていない取り組みを5年間放置しない）